

平成30年度新宮市男女共同参画講演会(谷口真由美さん)講演概要

新宮市では平成30年7月16日、新宮商工会議所において大阪国際大学准教授で全日本おばちゃん党代表代行の谷口真由美さんをお迎えし、誰もが自分らしく、生きられる社会に向けて～女が得か、男が得か、なぜ誰もが生きづらい世の中なのか～をテーマに男女共同参画講演会を開催しました。わかりやすく説得力のある谷口さんのお話しに、来場された約160人の皆さんは、熱心に耳を傾けていました。

また、アンケートも実施し、約84%の方からご協力をいただきました。その中で、「大変解かりやすく、話が聴きやすかった。」「とても納得出来るお話ばかりでした。」「男女共同参画について再認識できてよかった。」などの感想が寄せられています。詳しくは、一覧表のアンケート欄をクリックしていただけますと、アンケート集計結果のPDFファイルがご覧いただけます。



講演会では谷口さんが、参加と参画の違いが分かりますかの質問から始まり、参画とは、その場にいるだけでなく何かを決めるところにいる人。指標として女性の国会議員の割合は衆・参議院合わせて何%いると問いかけ、現在は10%で議員10人のうち1人しか女性がいらない。この中で決められているのが日本の社会構造。

今年5月に選挙で男女の候補者数をできる限り均等にしよう政党に求める「候補者男女均等法（政治分野における男女共同参画推進法）」が成立した際に、「男女の割合ではなく、能力に応じて候補者を立てればいい」という意見があったと紹介。「能力がないから女性の国会議員が少ないと言っているようだ」と述べた。また、政府は、2020年までに物事を決めるリーダーに女性が3割の人がなれるように政策「202030」を進めている。3割を超えるまでの少数派は意見も無かったことにされる。



さらに、大災害時の避難所運営を分かりやすい例としてあげ、リーダーは似たような年齢の似たような男性が集まると、似たような話しかできない。多様な経験を持った人が集まる方がいい、など自身の経験や笑いを誘う話も時には入れて解説した。

そして、人権という問題を考えると、どうしても自分目線になる。自分目線で考えてはいけない。さらに自分らしく生きられる社会にもふれ、今日帰ったら「自身の取り扱い説明書を作ってください。皆さんがご自身のことを大切にするためにも、まず自分のことを大事にしてください。夫婦で作って交換してもいい」と参加者に呼びかけた。

講演する谷口真由美（たにぐち まゆみ）さん（新宮商工会議所） 平成30年7月16日（月）